



Size : 530×455mm (F10)



「フリーマーケット」

この絵は昨年の記録的な猛暑が続く時期に訪れた世田谷公園（東京都世田谷区内）での一風景です。太陽が照り付け気温も35℃近くを示す中、若者達は野球やテニスといった野外スポーツに余念がなく、熱中症にならないことを他人のことながら願うばかりでした。公園の一角に幅広い年齢層の人達が集まる光景がありました。それがこの絵のフリーマーケットの会場でした。

ご存知の通り「フリーマーケット」の「フリー」は英語の「flea（蚤）」に由来し、「フリーマーケット」の旧称が「蚤の市」の語源となっています。

世田谷のフリーマーケットの歴史は、1587年（天正6年）北条氏が定めた「楽市掟書」で始まった世田谷城下の楽市に遡れます。この楽市は江戸と小田原間の相州街道の中間宿場を繁栄させることが目的だったといえます。北条氏の没落と共に衰退したもの、近隣農村の需要を満たす農耕具や古着市などとして存続しました。特に江戸時代には、農作業着の繕いや草鞋に編み込むボロが大量に取り扱われるようになり「ボロ市」の呼称が生まれることにもなります。現在「市」は物理的な広場で人々が集まって行うフリーマーケットのみならず、インターネット上でも行われるオンラインフリーマーケットにも生き続けています。

フリーマーケットは環境に優しい社会を考える時、中古の再利・活用が経済的利益を伴いながら行われるだけでなく、時には過去を懐かしむ心を癒すなどの効果もあると考えられています。売る人・買う人・眺める人それぞれに喜びがあることを思いながら作品を制作しました。



菊岡 保人